

歴史散歩



びわがや

経ヶ峰と枇杷ヶ谷地蔵

津市の北西部に位置する標高819mの経ヶ峰には、安濃地域、芸濃地域、美里地域にそれぞれ登山口があり、コースごとに異なった眺望や自然を楽しむことができます。今回は、安濃地域の山出ルートと呼ばれる登山道沿いにある枇杷ヶ谷地蔵を紹介します。

バス停「山出」から300mほど県道亀山白山線を歩くと、山出ルートの駐車場があります。そこから北大谷川の清流に沿って、なだらかな林道を進むと、15分程でコンクリート製の拝堂が見えてきます。枇杷ヶ谷地蔵は、この拝堂の奥の岩肌に彫られています。

幅3.5m、高さ4.5mもある大きな岩に刻まれている枇杷ヶ谷地蔵は、高さは40cm、幅19cmほどの大きさで、やや小ぶりな印象を与えます。平安時代に弘法大師が修行のため全国各地を回っていた際、この地にも立ち寄り岩に刻んだものと伝えられていて、拝堂に掲げられている「枇杷ヶ谷地蔵の由来」で詳しく説明されています。

また、かつて山出ルートの近くに龍泉寺と安養寺という大きな寺院がありました。この二つ

の寺院は、戦国時代に織田信長の軍勢が伊勢国に侵攻した際に、信長の弟・織田信包のぶかねによって焼き尽くされたと伝えられています。枇杷ヶ谷地蔵は、これらの寺院や山頂に続く道沿いにあり、参詣する人が多かったといわれていることから、今でも安濃地域草生地区の山出区・岩城区の皆さんにより大切に管理されています。



枇杷ヶ谷地蔵

ほかに山出ルートの登山口付近には横穴式石室を持ち、通称・朝日百穴ひやくけつと呼ばれる朝日山古墳群もあります。開墾などによって一部消滅しましたが、現在も14基の古墳が残されています。

新緑がまぶしいこの季節、経ヶ峰の歴史と文化をたどってみてはいかがでしょうか。

新緑がまぶしいこの季節、経ヶ峰の歴史と文化をたどってみてはいかがでしょうか。



拝堂

